

幸区は「庶民的な雰囲気」が漂っている。「気取らなくて良いまちだ」という意見がアンケートで数多く寄せられました。開発によりこれまでの街並みが変化しつつある一方で、昔ながらの商店街、夢見ヶ崎動物公園や多摩川などの自然が残されていることが、人々にどこか懐かしい雰囲気を感ぜさせているようです。

また、そこに住む人々も、工場で働く人たちが多く住んでいたころから、気さくで人情味あふれる方が多く、近隣の付き合いが盛んに行われていたようです。

それは、今なお引き継がれており、アンケート回答でも、「各町内会・自治会の連携がよくて、まち全体がまとまっている」「祭りなどの伝統を重んじる気風が残っている」「互いに助け合う精神がある」といった頼もしい意見が寄せられていました。

幸区には、そのような、古き良き時代の親しみやすさと、新しい都会的雰囲気との調和がとれた不思議な魅力があるようです。

みんなで子育てフェアさいわい

「手形とり」「親子体操」「新聞ちぎり」「手作りおやつ」の講習など、楽しい遊びを通し、子育てについて学べるイベントです。地域の子育て支援団体や関係機関が支援しており、地域との交流を深めるきっかけの場にもなっています。



お祭り

幸区では、古くから続くお祭りが各地の町内会・自治会で行われています。儀礼的なものだけでなく、地域の人々と交流し、つながりを深める機会として親しまれるお祭りもあります。



南河原地区町内会連合大運動会

南河原地区の町内会連合会・スポーツ活動振興会主催で、定番種目はもちろん、一家三代で協力する「家族そろってがんばろう」など、家族や地域と一緒に楽しめる運動会です。運動会を通して強まった地域の絆を更に強め、「明るい街づくり」を目指していきます。



日吉まつり

夢見ヶ崎公園の周辺で、日吉地域の人々が交流できる場を提供し、イベントを通じて日吉の輪を創り育てることを目的としています。幸区誕生と同時期から続いている、地域連携による一大イベントです。



幸区ふるさと編集委員会より 「これ、田舎から送ってきた笹団子、ちょっとだけ食べて」「孫の誕生日で炊いた赤飯、少しだけど、どうぞ」と、向こう三軒両隣の日頃のやり取り。昔から住んでいる人、親の代から住み始めた人、そして最近移してきた人。分け隔てない「ご近所同士」のお付き合い、このまちの住みやすさはこんなところにあるのかも。

1章 さいわいってどんなまち?

1章 さいわいってどんなまち?

下町的。

水のまち。

矢上川

宮前区水沢を水源とする、鶴見川水系の支流で、南加瀬付近で鶴見川と合流する、気軽に遊べる親しみやすい川です。矢上川下流を拠点に活動する市民団体「矢上川で遊ぶ会」は、生き物調査や清掃活動を通じて、子どもから大人まで川に親しむことや、よりよい川づくりを目指しています。



多摩川

一級河川である多摩川も、かつては水質汚染がひどかったのですが、川沿いの地域に住む多くの方の努力により、アユやウナギなど、清流にしか生息できない魚も見られる、昔のような美しさを取り戻しました。幸区内だけでなく、各地の学校の校歌にも歌われるこの川は、身近にある豊かな自然として、気軽に過ごせる親水空間として、あらゆる世代の方々に愛され続けています。

鶴見川

東京都町田市に水源を持ち、幸区と横浜市鶴見区との市境を流れる一級河川です。かつては暴れ川と恐れられていましたが、今では親しみやすくなり、夕方には、土手をウォーキングしたり、ジョギングしたりと、思い思いの時間を過ごす姿があります。



二ヶ領用水

多摩川などを水源とし、江戸時代の稲作を支える農業用水として、昭和時代には工場地帯へと供給するための工業用水として、時代ごとに活躍した用水です。現在、当時の姿は見られなくなりましたが、近隣の人々の憩いの場として親しまれています。

三方を川に囲まれた水の街

北に多摩川、南に鶴見川、西に矢上川と、幸区は三方を川に囲まれ、川の氾濫原から生まれた沖積平野です。アンケートの回答では、身近な自然を感じられる水景を愛し、後世に残していきたいという意見が多く出されていました。

古くから幸区にお住まいの方からは、河川が整備される以前の多摩川や鶴見川は相当な暴れ川で、度々、幸区域に大きな洪水をもたらしたというお話も寄せられました。他にも子どもどころ多摩川や矢上川、二ヶ領用水で泳いだり、魚を釣ったり、まさに自然の遊び場だったことを伝える人や、野球場やジョギングコースなど、スポーツを楽しむ場と考えている人も多くいました。世代や興味により、返ってくる答えは千差万別、多くの人々を受け入れる懐の深さもこれらの川は持っているようです。川をテーマにご近所の方々と語り合ってみたら、それぞれが過ごしてきた時代の雰囲気や空気を、垣間見ることが出来るかもしれません。

幸区ふるさと
編集委員会
より

以前、市政だよりで「街角の詩」という詩を募集するコーナーがあり、14年間に渡って、親子で詩を投稿しました。「多摩川のリズムに合わせ 河辺行く 光る水面は 詩歌の師なり」。詩歌を詠むことが生きがいとなった私にとって、多摩川は詩の師匠と言えますが、「母なる川」ともいわれるように、多くの方にとっての大切な存在だと感じます。

大小さまざまな工場が集積していた幸区も、大規模工場の移転が続く中、その表情を変えてきています。一方、アンケートの回答では、「東芝科学館」のような日本のハイテク産業の歴史を伝える施設や、最先端の研究を行う施設など、「ハイテク」をさまざまな形で未来に継承していくことを望む意見も多かったです。工業都市のDNAを継ぐ「ハイテク」は、幸区を語る上で、外せない言葉だといえます。



川崎市産業振興会館

かわさきテクノピアの一角で、地域企業の交流などを目的として、研修会などの情報や場の提供をしています。毎年「かわさきロボット競技大会」では、学生から社会人まで、ものづくりの技術を競う白熱バトルが展開されます。



東芝科学館

東芝小向町にある、日本のハイテク産業をリードし、幸区の一時代を築いた会社の歴史を体験できる施設です。子どもたちが楽しみながら科学技術に触れ、学ぶことのできる仕掛けが数多くあり、長年親しまれ続けています。



かわさき新産業創造センター (KBIC)

「新川崎・創造のもり」地区にあり、研究開発型企業の支援施設です。起業したばかりの企業の育成や新たな事業分野への進出支援などを通して、地域経済の活性化を図ります。平成24(2012)年4月以降、ナノ・マイクロテクノロジーを核にした産学官共同研究施設の各研究棟も開設されます。



小向の獅子舞 (小向獅子舞保存委員会)

県指定無形民俗文化財に指定された、「大獅子」「中獅子」「女獅子」の3頭に「仲立ち」が加わって舞う1人立3頭形式の、伝統ある獅子舞です。「仲立ち」の小学生の男の子から、唄担当の長老まで、地域の人々が年齢に応じて関わり続けられることが特徴の一つです。

歴史ある。



幸区内の伝統民俗芸能
御幸地区の「戸手中部獅子保存会」、日吉地区の「小倉獅子保存会」など、各地区に伝統民俗芸能が根付いています。



幸区内の寺社
村の草創期からある「円真寺」、徳川家康が名付けの親の「東明寺」、地元から親しまれている「熊野神社」など、身近な寺社にも面白い物語が多くあります。



国宝・秋草文壺 【所蔵】慶応義塾
白山古墳の後円部の裾から発掘された陶製の壺で、外面に秋草やトンボなどの文様が軽やかに描かれています。川崎市で出土した唯一の国宝です。

1章 さいわいってどんなまち?

1章 さいわいってどんなまち?

今なお残る幸区域の記憶

加瀬山から始まった幸区域の歴史は、悠久の時を経て、多くのものを残してきました。アンケートの回答では、加瀬山に今もその姿を見ることが出来る「古墳群」や、江戸の世の稲作を支えた「ニヶ領用水」などを地域の誇りとして捉える意見や、「小向の獅子舞」をはじめとした、人から人へと伝承される伝統芸能を大切にしたいという意見が多くありました。幸区を育んできた「記憶」は、多くの区民の脳裏に焼き付いているようです。



加瀬山の古墳群
加瀬山周辺は白山古墳があったことで有名ですが、他にも大小さまざまな古墳があり、現在7基の古墳が残されています。その一つである第3号墳は、7世紀後半の横穴式石室墓で、出土物の中には成人男子の人骨片もありました。

幸区ふるさと編集委員会より 歴史をさかのぼると、このあたりは加瀬山周辺から生活の場が広がっていったようです。我が家にも掛け軸や木札など歴史ある家宝がありますが、幸区にも加瀬山を中心として現存する古墳や歴史的遺産が多く、それらに触れて当時の様子を思うと感慨深いものです。そんなふうには歴史あるものを巡ってみるのも楽しいですよ。



慶應義塾大学 K²(ケイスクエア) タウンキャンパス

川崎市と慶應義塾大学の連携の下、「新川崎・創造のもり」地区に設置された研究施設です。電気自動車「Elica (エリーカ)」や、プラスチック光ファイバーに代表される高分子光学など、最先端の研究が推進されています。また、オープンテクノキャンパスや子ども向けセミナーなどにも力を入れています。



幸区ふるさと編集委員会より かつて経済成長を支えた工場や新鶴見操車場の移転・廃止後の跡地開発が行われ、産業・大学・行政が連携した研究施設やハイテク産業の研究開発拠点の開設が続き、幸区は再び日本をリードする先端技術基地へ変貌しています。

活動的。



1章 さいわいってどんなまち?

1章 さいわいってどんなまち?

幸区民祭

毎年10月に2日連続で行われ、多くの人が集まる大規模なイベントです。さまざまな団体による出店や、文化・芸能などの発表など、まさに幸区民みんなで楽しむお祭りです。



防災訓練



夢こんさあと・さいわい区民音楽祭

お昼休みに憩いのひとときを提供する「夢こんさあと」や、音楽の祭典である「さいわい区民音楽祭」など、音楽を通し、文化のある、豊かなまちづくりを目指しています。



リレーカーニバル

幸区内全域の町内会・自治会対抗で、小学生から大人までみんなが盛り上がる、最初から最後までリレーづくりの伝統ある大会です。開会式に行われる聖火点灯も必見です。



幸区文化祭・幸文化センター祭

幸区の伝統文化や芸術の継承、市民文化の向上などを目指して、幸区文化協会主催で「幸区文化祭」を毎年秋ごろ、開催しています。また、幸サークル連絡協議会が主催で、「幸文化センター祭」を年1回開催し、日頃の活動成果を発表しています。



動物園まつり

夢見ヶ崎動物公園で年に2回行われ、園内の裏側を見学できるバックヤードツアーや動物リレーガイド、餌やり体験、ポニーの乗馬体験、動物ふれあいコーナーなど、動物公園を満喫できる催し物がいっぱいです。



区民が主役の場がたくさん

これまで幸区のおもしろい魅力をご紹介してきましたが、最大の魅力は、そこに住む人々と、その生活にあることです。暮らしの場である地域社会を、活力のある、住みやすい豊かなものにしていくためには、その地域に住む一人一人が、積極的に地域づくりに参加し、努力していくことが大切になります。

幸区では、もっと住みよいまちにしていくために、課題解決に向けて、さまざまな活動が行われています。それは、アンケートの回答でも、「町おこしを意識した色々なイベントがある」「地域活動があり住みやすい」などといった意見からも知ることが出来ます。また、このような取り組みの結果ともいえるでしょうが、「治安が良い」「地域が明るく安全で安心である」「大きな事件がなく平和な町である」「安心して生活できる住みやすいまちである」などの意見も多数寄せられました。地域における人々の活動が、幸区をその字の「こ」とく、「幸せなまち」にしているようです。

幸区ふるさと編集委員会より
幸区は町内会・自治会組織率が川崎市内で最高であり、まちづくりの意識が高く、住民同士の交流が盛んな区と言われています。「安全・安心のまちづくり」はもちろん、各町内会・自治会では、会員同士の交流を深めるため、大小さまざまな活動が行われております。これからも幸区のみずみずき活力ある発展が期待されます。